

J-HPH Newsletter

No.23 | JUNE 2023

日本 HPH ネットワーク事務局
〒812-8633 福岡市博多区千代5丁目 18-1
千鳥橋病院内
TEL : 092-641-2761(代表)
office@hphnet.jp
https://hphnet.jp



写真: 広島国際会議場

第8回 J-HPH スプリングセミナー 報告

概要報告

2023年4月15日(土) 13:00~18:00

日本 HPH ネットワーク(J-HPH)は、第8回 J-HPH スプリングセミナーをオンラインにて開催し、144名(講師・報告者・主催者含む)の方にご参加いただきました。開会あいさつでは、島内憲夫 CEO より、「日本 HPH ネットワークのカンファレンスやセミナーでは、健康格差に取り組むために医療や介護現場で利用できる経済的支援ツール学習や各地での実践を進めてきました。健康格差の対処には社会的処方と有効であると注目されています。今回の基調講演は、地域における社会的処方の先進的取り組みとして、評価されている宇都宮市医師会社会支援部の村井邦彦先生に「地域における社会的処方の実践～宇都宮市医師会社会支援部の実践～」と題してご講演をいただきます。3つのワークショップ(以下 WS)は、WS1「どうする HPH 基準・自己評価」、WS2「まちづくりとヘルスプロモーション～社会的処方の実践から学ぶ～」WS3「ここから始めよう、誰もが働きやすい医療機関～当事者とともに考える LGBTQ、そして SOGI～」です。第8回 J-HPH スプリングセミナーがご参加の皆様にとって満足のいくセミナーになることを祈念して CEO の挨拶いたします。」と述べました。講師の先生方をはじめワークショップ報告者、スタッフの皆様そして参加者の皆様、関係各位へ主催者一同より厚く御礼申し上げます。

参加者職種内訳: 医師、薬剤師、看護師、社会福祉士、理学療法士、作業療法士、保健師、管理栄養士、大学教員、大学生、介護福祉士、助産師、臨床検査技師、鍼灸師、調理師、共同組織会員、事務。

オンデマンド配信: 2023年4月24日～5月31日

目次

第8回 J-HPH スプリングセミナー報告1
概要報告
講演「地域における社会的処方の実践 ～宇都宮市医師会社会支援部の実践～」
ワークショップ報告
WS1「どうする HPH 基準・自己評価」
WS2「まちづくりとヘルスプロモーション～社会的 処方の実践から学ぶ～」
WS3「ここから始めよう、誰もが働きやすい医療 機関～当事者とともに考える LGBTQ、 そして SOGI～」
国際 HPH ネットワーク TOPICS5
第29回国際 HPH カンファレンス 2023
第32回国際 HPH ネットワーク総会
研究・資料6
「ヘルスプロモーション用語集 2021」
書籍案内
加盟事業所の取り組み6
一般社団法人群馬保健企画 あおば薬局渋谷店
公益社団法人地域医療振興協会 ヘルスプロモ ーション研究センター
鳥取医療生活協同組合 鳥取生協病院
愛媛医療生活協同組合 愛媛生協病院
加盟事業所数11
日本 HPH ネットワーク TOPICS11
第8回日本 HPH ネットワーク総会・コーディネ ーターワークショップ
第8回 J-HPH カンファレンス 2023

講演「宇都宮市医師会の社会的処方 の取り組みについて」

講師：村井邦彦氏(宇都宮市医師会在宅医療・
社会支援部担当理事／村井クリニック院長)

全体会の講演は宇都宮市医師会・社会支援部担当理事の村井邦彦先生にお願いしました。宇都宮市医師会では2018年3月から無料低額診療と健康の社会的決定要因(SDH)についての学習を開始、千葉大近藤克則教授の講演会などを経て、2019年7月に医師会のもとに社会支援部を設置しました。その活動は下野新聞の連載「なぜ君は病に」で取り上げられ、広く知られています。同連載記事は2022年日本科学技術ジャーナリスト会議の科学ジャーナリスト賞(優秀賞)を受賞しました。

村井先生は講演の中で、社会支援部の設置に大いに尽力された当時の片山宇都宮市医師会長の問題意識として、医療費抑制を目指す性急な医療制度改革は疑問である、医療費の削減を病人を減らすことで実現したい、病気と予防の上流の社会状況にアプローチすべき、経済格差・教育不足・社会的孤立が課題である、保健活動を通して全世代への取り組みを進める、特に子供たちへのアプローチを進める、社会的処方に取り組む、等を挙げられました。真摯に臨床に取り組む、時代の変化を感じてきた医師の実体験からの問題意識と感じました。

具体的な活動として1)SDHに関するアンケート・見える化シートの作成、2)診療情報提供書の改訂を行い、「生活上の課題(生活環境、経済状況、家族関係など)」の記載欄を追加、3)地域で活動する団体をデータベース化し、地域の社会資源を見える化、4)小中学校での健康教育講座の開催、5)データベースづくりや健康教育について行政との協力関係を構築、などを紹介されました。

2021年8月に社会支援部のもとにこども部会を設置、その問題意識は、子ども期の課題が成人後の社会的、経済的、健康的格差に影響するという、不登校・いじめ・教育格差など子ども特有の看過できない課題があることでした。検診未受診者の現状把握、子ども権利条約の勉強会開催、不登校に悩む親向けに「お母さんのほけんしつ」というLINE

相談窓口の設置、フリースクールマップの作成、不登校ガイドラインと小児科医からのアドバイスを記載したパンフレット作成、無料塾の紹介などに取り組まれています。

今後の課題として、地域の諸団体との連携・協働を挙げられ、子どもへの支援をする団体、リンクワーカー養成研修、コミュニティナースとの連携、を挙げられました。講演の中での「みんながリンクワーカー、みんなが社会資源」「頭一つ出たところで見回すと(地域が)見えてくる」という言葉が印象的でした。

講演を通じて、村井先生のフットワークの良さと様々な団体と繋がる力を強く感じました。今後の医療・介護のあり方、社会的処方の可能性やまちづくりについてのヒントがたくさん詰まった講演会でした。

報告：根岸京田(日本HPHネットワーク運営委員・
東京保健生活協同組合 理事長)

ワークショップ報告

WS1「どうする HPH 基準・自己評価」

講師：尾形和泰(日本HPHネットワーク運営委員・
北海道勤労者医療協会 札幌病院 院長)

参加者14人でワークショップを開始しました。このワークショップは、国際HPHネットワークが作成し日本HPHネットワークが翻訳した「2020年版HPH基準」と「自己評価ツール」(現在、翻訳中)の理解を深め、基準を参考にして施設におけるヘルスプロモーション活動の水準を高めるために開催されました。

基準は、ヘルスサービスにおけるヘルスプロモーション活動とマネジメントについて整理したものです。具体的には5つの基準からなります。基準1は、組織のマネジメントに関する事。基準2は、サービスのアクセスへの保障に関する事。基準3は、住民中心のヘルスケアおよび利用者参加の促進に関する事。基準4は、健康的な職場、健康的な環境づくりに関する事。基準5は、より広い社会におけるヘルスプロモーション(気候環境など)です。

日本 HPH ネットワーク運営委員(勤医協札幌病院)の尾形先生より基準の説明を受け、その後、昨年度の自己評価アンケートの結果の報告を受けて、参加者で国内の施設の課題を議論しました。

自己評価アンケートの結果では、比較的实施率が高い基準は、基準 4(職員、環境) > 基準 2, 3(患者) > 基準 1(管理) > 基準5(新しい課題)の順でした。つまり、職員の労働安全衛生管理は法令順守の観点からも実践が進んでいる結果でした。一方、気候問題などヘルスプロモーション活動として要請されるようになった新しい課題については着手が遅れている状況でした。また、ヘルスプロモーション活動の記録やモニタリングの実施状況は低い傾向にありました。

以上の報告を受けた討論で、基準の理解を深めることができました。一方、新しいヘルスプロモーション活動の課題やデータのモニタリングなど遅れた課題に関しては、良好事例の紹介などにより各施設での実践を支援していく必要性が浮き彫りになりました。さらに、日本の実情に合わせたカスタマイズをすることで、より国内で実効性がある基準となるだろうと考えられました。

報告：舟越光彦(日本 HPH ネットワーク コーディネーター・公益社団法人福岡医療団 理事長・千鳥橋病院 予防医学科 科長)

WS2「まちづくりとヘルスプロモーション ～社会的処方の実践から学ぶ～」

講師：佐藤真治氏(帝京大学 スポーツ医療学科健康スポーツコース 教授)

WS2は「まちづくりとヘルスプロモーション～社会的処方の実践から学ぶ～」というテーマでワークショップを行いました。ワークショップの目的と獲得目標は以下の通りです。

【目的】

ヘルスプロモーション活動を通じたまちづくりを進めていくために、先進的な取り組みを行っている地域や施設の経験から学ぶ。

【獲得目標】

- ・まちづくり、社会的処方について国内外の現状と展望を学ぶ。
- ・まちづくりや社会的処方を実践する上での工夫や課題を深める。
- ・参加者の現在の取り組みやこれからの取り組みを一步進める。

定員50名いっぱい申し込みがあり、まちづくりと社会的処方への関心の高さを感じました。講師として基調講演を帝京大学佐藤真治教授、実践報告を生協ふたば診療所千嶋巖先生と三谷ファミリークリニック/紘 磯田久恵さんにお願しました。また参加者からの報告として深谷生協訪問看護ステーション永躰千春さんと甲府共立病院/コスモス会阿部水穂さんにも実践報告をしてもらうことができました。

ここでは字数が限られるため3名の講師の講演内容を簡単にご紹介します。佐藤先生の基調講演のテーマは「シンガポールと高円寺の社会的処方」でした。海外の事例として直前に視察に行かれたシンガポールが政策として医療制度と社会的処方をうまく組み合わせて予防医療を充実させることで、低い医療費で世界一の健康寿命を実現していることをご紹介下さいました。また、国内の事例として佐藤先生のご専門である「Exercise is Medicine (EIM)」を社会的処方のメッカといえる高円寺小杉湯をベースとした「夕焼け散歩」として始めた取り組みがどんどん広がっている様子を楽しくお話いただきました。千嶋先生はご自身の経験を踏まえながらSDHと宇都宮での実践について熱くお話し下さいました。事例や地域でのネットワークについてお話しいただけたことで、全体講演での村井先生の宇都宮市医師会の取り組みをより理解することができました。磯田さんをご勤務されているクリニックが地域の方と地元の商店街を元気にするために始めたまちづくりの取り組みについて、コロナ禍での継続の工夫やクリニックから独立して運営を始めた苦労に至るまで率直にお話し下さいました。永躰さんと阿部さんもそれぞれの取り組みを分かりやすくお話し下さり、幅広い実践から学ぶという目的は十分に

達成できました。また、講演と報告に対してコメントや質問が多く寄せられたことで、社会的処方やまちづくりを実践する上で大切な点を深めることができました。ディスカッションを通して浮かび上がった一番のキーワードは「楽しさ」でした。具体的な取り組みとして佐藤先生のフィールドである「高円寺 小杉湯」「高円寺 夕焼け散歩」のキーワードで検索してぜひ「楽しさ」を実感して下さい。

事前アンケートで参加者のみなさんがすでに様々な実践に取り組んでいることが分かりましたので、J-HPH として継続して取り組みやアイデアを共有したり学ぶ場を企画して社会的処方やまちづくりの実践を拡げていきたいと思えます。講師のみなさん、参加して下さいましたみなさん、本当にありがとうございました。

報告：大矢 亮(日本 HPH ネットワーク運営委員・
社会医療法人同仁会 耳原総合病院
副院長・救急総合診療科 部長)

WS3「ここから始めよう、誰もが働きやすい医療機関～当事者とともに考えるLGBTQ、そして SOGI～」

講師：吉田絵理子氏(川崎医療生活協同組合
川崎協同病院 総合診療科)

WS3 は、吉田絵理子氏(医師、一般社団法人にじろドクターズ、川崎協同病院)を中心に、外松恵三子氏(鍼灸師、土庫鍼灸診療所)、玉木千里氏(医師、京都協立病院)、杉山基樹氏(事務、川崎医療生活協本部)、菊池修司氏(医師、城南病院)、比嘉研氏(医師、利根中央病院)、光武鮎氏(医師、松本協立病院)、河野絵理子氏(医師、長野中央病院)、近藤歩氏(事務、健生会にしき訪問看護ステーション)の 9 名によりコーディネートされました。参加者は運営側を含み 48 名でした。

WS の冒頭、運営委員の結城由恵氏より、本 WS の主旨について説明されました。続いて吉田絵理子氏が WS を進行されました。

まず、「LGBTQ/SOGI の基礎知識」について、河野絵理子氏より解説されました。SOGI の SO と

は Sexual Orientation:性的指向の略で、GI とは Gender Identity:性自認の略で、どんな性別の人を好きになるのか、自分をどんな性だと認識しているのかについて解説され、トランスジェンダーすなわち身体的性別や出産時に指定された性別と性自認にずれがある人々の中にも、SO と GI には多くの多様性があることが説明されました。また、一般的に用いられている LGBTQ はセクシュアルマイノリティの総称であること、アライ(Ally)とは LGBTQ を理解・支援する人であり、アライについても理解を深めることができました。講師の河野氏はアライとして活動されておられ、ご自身がアライになられた動機として、「マイノリティが生きやすい社会を作るためにも、マジョリティが行動する責任があること」「私自身もマイノリティの側面があること」「私自身のセクシュアリティも変わるかもしれないこと」を挙げられ、SOGI を自分事として考えるようになったと述べておられました。

基礎知識の講義を受けて、7つのグループに分かれて最初の SGD が持たれ、自己紹介などを行い、基礎知識の講義の感想を出し合いました。

続いて、当事者からの語りとして、吉田絵理子氏と外松恵三子氏から、ご自身の SOGI とこれまでの経験について語られました。

休憩をはさみ、病院での実践報告として玉木千里氏より京都協立病院での「LGBTQ フレンドリーな病院を目指した当院の取り組みとその意義」についての報告を受けました。京都協立病院では、2020 年 5 月より管理者を対象とした勉強会を始められ、その後は、年 1 回は全職員を対象にした学習会を開催されるなど精力的な活動について紹介されました。この他、LGBTQ 支援団体や各種資料の紹介、高崎中央病院で発行されておられる「LGBTQ に関する NEWS」についても紹介されました。近藤歩氏からはマイクロ・メゾ・マクロレベルでの LGBTQ についてどう考え行動するのかについての問題提起があり、NHK の紅白歌合戦についても 2018 年から男女の区別を無くす方向となり、これまで赤と白のロゴマークも昨年は赤から白へのグラデーションに変化していることが紹介されました。これを受けての SGD では、各人が考えるマイクロ・メゾ・

マクロでのLGBTQの取り組みについて深め合いました。

今回のWSに参加して、LGBTQやSOGIについての理解をさらに深めることができたことと、自分自身ならびに自分が所属している組織において、どのような取り組みを進めていくべきであるかについての多くの学びを得ることができました。

報告：廣田憲威(日本HPHネットワーク監事・
一般社団法人大阪ファルマプラン)

国際HPHネットワーク TOPICS

第29回国際HPHカンファレンス2023 オーストリア・ウィーン

2023年9月20日(水)～23日(土)

“Contributions of Health Promotion to Well-being-oriented Healthcare in Memoriam JÜRGEN PELIKAN”

「Well-being 志向のヘルスケアへのヘルスプロモーションの貢献 追悼 ユルゲン・M・ペリカン」

2023年の国際HPHカンファレンスは、会場とオンラインのハイブリッドにて開催されます。会場参加は200名に制限され、事前登録によりコードを受け取った方のみ会場参加にご登録いただけます。

抄録は、科学委員会ですべての抄録が審議され、採択が通知されます。抄録が採択された方、会場・オンライン参加いただく方は、期日までに登録を行ってください。抄録登録採択された方で参加登録を期日までに行わない場合、抄録集から削除され、カンファレンスに参加いただけなくなりますのでご注意ください。国際カンファレンスツアーにご参加の方は、事務局よりご連絡いたします。

抄録登録締切:2023年5月2日(火)18:00 CET

参加登録早期割引:2023年7月14日(金)

<https://www.hphconferences.org/vienna2023/>



第32回国際HPHネットワーク総会 32nd Meeting of the HPH General Assembly

国際HPHカンファレンス2024 広島開催決定

2023年5月5日に国際HPHネットワーク総会がオンライン開催され日本HPHネットワークコーディネーターの舟越光彦が出席しました。

総会では、主に、オーストリア・ウィーンで開催される第29回国際HPHカンファレンスの準備状況と2024年開催の第30回国際HPHカンファレンスの開催地について議論されました。

2023年開催の第30回国際カンファレンス開催の候補国は日本のみで、立候補のプレゼンを行いました。日程は、2024年11月6日から8日、テーマは、健康格差(Health Equity)に関するにすること、開催地は、世界的にヘルスプロモーションの前提条件である平和の危機が深まる中で、平和を求める象徴的な都市である広島で開催したいことを提案しました。Health Equityは今日的に最も重要な課題であると賛同の意見も寄せられ、満場一致で日本開催が可決されました。

この他、「HPHと環境に関するタスクフォース」と、「ヘルス・リテラート・ヘルスケア組織に関するワーキンググループ」がそれぞれのグループの活動について



て報告し、コーディネーターのマリアンヌ・ホシェ氏（フランス）とクリスティーナ・アグリ氏（イタリア）が各国の取り組み報告を行いました。

総会は 16 カ国が参加し、病院やヘルスサービスにおけるヘルスプロモーションの実施に向けてユニークな視点での報告を行いました。

報告：舟越光彦（日本 HPH ネットワーク コーディネーター・公益社団法人福岡医療団 理事長・千鳥橋病院 予防医学科 科長）

研究・資料

「ヘルスプロモーション用語集 2021」

”Health Promotion Glossary of Terms 2021”の日本語版「ヘルスプロモーション用語集 2021」が日本 HPH ネットワークと日本ヘルスプロモーション学会の共同翻訳により発行しました。正式に WHO から承認を得て、すでに WHO の WEB サイトにも掲載されています。是非皆さんもご活用ください。

2023 年3月 8 日発行

日本 HPH ネットワークの WEB サイト「研究・資料」>「ヘルスプロモーション用語集 2021」よりダウンロードいただけます。

<https://www.hphnet.jp/mcm/17461/>



書籍案内

『実践 SDH 診療 できることから始める健康の社会的決定要因への取り組み』

日本プライマリ・ケア連合学会 監修

近藤尚己 編著 / 西村真紀 編著

A5 判 282 頁

定価 5,060 円

(本体 4,600 円 + 税)

ISBN978-4-498-

12006-8

2023 年 5 月発行



加盟事業所の取り組み

一般社団法人群馬保健企画 あおば薬局渋川店

あおば薬局渋川店では地域のヘルスプロモーション活動を積極的に行ってきました。2017年に健康サポート薬局の認可を受け、翌 2018 年には、J-HPH ネットワークにも加盟し、さらなる地域活動の前進のため、薬局内に HPH 推進委員会を設置しました。その委員会にて活動内容の計画や評価を行い、より質の高い取り組みへとつなげています。

当薬局における主な活動内容としては、「あおば薬局お薬・健康のこと勉強会」の開催（4か月に1回を基本）、薬局ご利用者様への健康・疾病予防関連の啓蒙チラシの作成・配布、近隣の地域包括支援センター主催の学習会へ講師としての参加、こども薬剤師体験会の実施、ウォーキングチャレンジなど主に健康関連を中心とした職員への HPH 活動など、様々に行っています。

地域向けの学習会はこれまでに様々なテーマで行ってきました。ノロウィルスなどの疾患の話から、フレイル予防、糖尿病予防関連、保険の話やお薬手帳の活用方法など多岐にわたります。

近年では新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、特に地域向け学習会開催を中心に中止を余儀なくされ、定期開催を断念せざるを得ない状況が続いていました。

2022年度には3回の地域向けの勉強会を予定しておりましたが、第1回、第2回が中止となり、感染者数が比較的落ち着いた令和5年3月に第3回として『手話について』を開催することが出来ました。「手話は言葉でなく手で表したもの」「一つの手話で意味は何通りかある」などの内容で、参加者は少なかつたものの、参加者からは、「また参加したい」「定期的開催して欲しい」などの声を頂いています。

今後は、人気の高かった薬剤師体験会や、手帳カバー作りなどのイベントなどを開催し、地域へ向けた勉強会も定期的開催していきたいと思えます。

報告：高橋智彦氏(あおば薬局渋川店)



原稿募集 皆様の事業所のヘルスプロモーションの取り組みをニュースレターにお寄せください。ニュースレターおよびWEBサイトの「加盟事業所の取り組み」に掲載させていただきます。なお、可能な限り、資料「2020年版 HPH 基準」に該当する基準・副基準の番号を併せてご記載ください。文字数 1,000 文字程度と写真2枚(JPEG)
E-mail : office@hphnet.jp

公益社団法人地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センター

「キラリと光る地域振興協会25病院の活動 ～HPH アンケートの結果より～」

地域医療振興協会は、地域医療を支援し、それによって地域の振興を図ることを目的に設立されました。日本全国の地域、そこに住む人々、そして医療に携わる医療人の三者が幸せになれる未来を作っていくため、様々な活動を行っています。

昨年度、地域医療の質向上を図る一環として、協会が運営する25病院を対象に、ヘルスプロモーション活動(以下、HPH 活動)の実態調査を行いました。本調査では、あえて「業務か? HPH 活動か?」という線引きはせず、通常業務の中や延長線上にある、患者・利用者さんや地域の方々、そして職員の健康規定要因や生活環境をより良くしようと考えるプロセスやサポート、全てをHPH活動に含めることとしました。

その結果、25病院全施設から、それぞれの地域特性、病院の規模や機能、ニーズに合った創意工夫にあふれる活動が寄せられました。その一部を2020年版 HPH 基準に沿ってご紹介します。

基準 1: HPH への組織的取組の表明

台東区立台東病院、あま市民病院では、運営方針の一つにヘルスプロモーション病院としての活動を掲げ、院内外に広く周知しています。そして、職員がそれを意識して自発的な行動につなげるためのワークショップを開催し、それを基に地域でのフレイル予防や病院祭、禁煙支援、認知症カフェ等のHPH活動を行っています(基準 3・4にも該当)。

基準 2: サービスへのアクセスの保証

石岡第一病院をはじめ複数の病院で患者相談室を設け、子どもから高齢者まで経済的な問題を含む療養上、生活上の様々な相談に応じています(2.1.1~2&2.3.3)。また東京ベイ・浦安市川医療センターでは、病院紹介や役に立つ健康情報を分かりやすく住民や施設利用者に届けるためWeb通信を発行し(2.2.1~5)、遠方の方でも受診できるよう複数の科においてオンライン外来を開始しました。妊婦さんの安全を担保し安定した出産前教育が

※本調査は、京都大学大学院医学研究科医療経済学分野との共同研究として実施しました。

地域医療振興協会 HP



<https://www.jadecom.or.jp/info/detail.html?pageid=1078>

ヘルスプロモーション研究センターHP



<https://healthprom.jadecom.or.jp/post-all/>

報告：川畑 輝子氏(公益社団法人地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センター 研究員・管理栄養士)

鳥取医療生活協同組合 鳥取生協病院

「地域に出向いた食料無料市の取り組み」

鳥取生協病院が加盟している鳥取県民主医療機関連合会(以下、鳥取民医連)では、医療生協組合員や県労連・医労連、県生協、公営団地の自治会などと協力しながら、地域の公営住宅団地へ出向いた食料無料市を開催しています。2023年4月15日には、第5弾となる食料無料市を開催し、合計180セットの食材セット(米2kg・即席麺やそば等・カレー)配布と、希望する方には野菜やその他食材、マスクやトイレトペーパー・おむつなどの生活雑貨の配布を行いました。

公営団地に出向く食料無料市が始まった経緯は、2021年メーデーに実施した食料支援企画の経験

からでした。鳥取民医連ではコロナ禍の地域の状況を把握しようと、2020年末から県内4市の公営住宅を対象に困りごとアンケートの配布を行いました。アンケート結果からは、公共料金の支払いに困っていたり食費を削っていたりする生活実態が明らかとなり、地域には潜在的に生活に困っている方がいることがわかりました。新たに地域の困っている方々と繋がることを目的に、2021年メーデーに鳥取医療生協の駐車場で100セットの食材を準備して食料支援企画を開催しましたが、当日来場されたのは10数人でした。

この結果を受け、「困っている人がいないわけじゃない。でも、世間体を気にする人が多く自己責任論も根強い。会場までの移手段もない。地方でのアウトリーチは試行錯誤が必要だ」と振り返りを行い、公営住宅に出向いた食料無料市の取り組みを始めることになりました。

4月15日の無料市当日は、実行委員以外にも新入職員や看護奨学生も加わり、総勢82名の体制で、開催団地の無料市対応や開催団地以外のお届け希望者等への食料配布を分担して行いました。開催団地では、集会所をお借りし、食料配布以外にも血圧測定ブースや相談コーナーを設置し、希望者に食材セットや野菜などを玄関まで届ける「お届け隊」も編制して来場者を迎えました。

公営団地に出向いたアウトリーチの取り組みは、無料市をきっかけに当院の無料低額診療事業を利用することで受診に至ったケースや、民医連職員が同行することで生活保護制度の利用に繋がったケースもあり、日常の医療活動の中では繋がることがなかった生活困窮者との新たな繋がりがつくれる貴重な機会となっています。また、無料市利用者の中で「本当に困った時の相談先が知りたい」という



意見が多く聞かれており、地域の中での繋がりの重要性と、繋がり続けることの大切さを感じています。引き続き取り組みを継続していく中で、他団体や自治体等との連携も模索していき、医療生協組合員活動の優点を活かした地域づくり・健康づくりに繋がる取り組みになればと考えています。

報告：横山 洋介氏(鳥取生協病院 事務次長)

愛媛医療生活協同組合 愛媛生協病院

「松山市の健康づくり事業で“最優秀賞”受賞」

松山市健康づくり応援パートナー登録事業に登録している61事業所の中から、愛媛医療生協愛媛生協病院が、2021年度最優秀賞に選ばれました。この事業は、健康寿命の延伸を目指し、従業員やそのご家族をはじめとした市民の皆さんの健康づくりに、市と企業等とが一緒にとりくむ事業です。

特に評価された取り組みは、

①コロナ禍1年が経過したところで、職員のメンタルヘルスチェックとして、うつ・不安障害に対するスクリーニング(k6)調査を行いました。

k6の回収率は98%と高く、職員の関心高さがうかがえました。職員全体のこころの状態を把握することができ、部署ごとの特性もわかりました。

結果を返す際は、結果の他に全職員に全日本民医連ホームページより「職員の健康を守る」サイトの紹介、日本赤十字社が作成した「感染症流行期にこころの健康を保つために～新型コロナウイルス感染症に対応する職員の方々へ～」を添付しました。また、

点数に応じて事業所内外の産業保健スタッフの情報や精神科への受診勧奨文を添付しました。

②腰痛予防の取り組み。腰痛の有無は離職理由にも優位に影響しており、腰痛予防は人材を確保する意味でも重要な課題となっています。現状把握のため「腰痛に関するアンケート」を全職員に行いました。

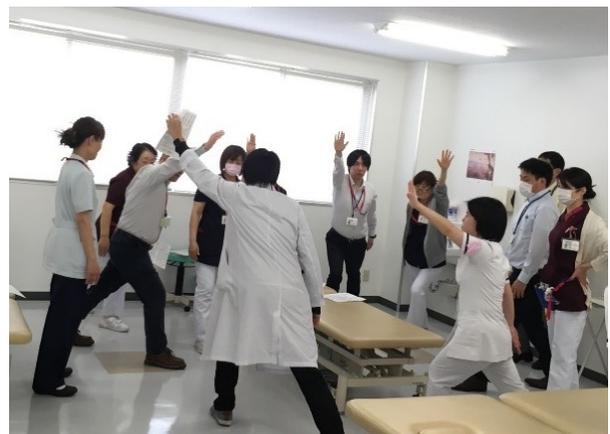
各自が自身の状態を把握するために、一人一人に【腰痛レベル】と【腰痛タイプ】という判定を出し、結果をお返ししました。腰痛アンケート回収率は98%と高く、職員の関心が高いことがうかがえました。結果返しの際、【腰痛レベル】と【腰痛タイプ】に応じて、それぞれにあったストレッチを理学療法士に提案してもらい、パンフレットを作成してその効果を調べるアンケートとともに添付しました。実際にストレッチを継続した職員は、腰痛が改善した方もおり、ストレッチの効果が認められました。

③生活習慣に取り組むために、健康チャレンジ(運動・オーラルフレイル予防・栄養・脳～心理的・認知的・社会的フレイル～・キッズチャレンジ・私の健康法)の中からトライする項目を選び9月～11月までの期間で、60日間チャレンジに取り組む事です。生協病院職員は114名参加しました(44%)。

愛媛生協病院は、職員の健康づくりを応援するため、安全衛生委員会が主体となり取り組んできた結果です。職員が、健康でいきいきと働き続けられることをめざして、そして、患者さん、地域住民の健康づくりに取り組んで参ります。

「2020年版HPH基準」基準4.1.3.

「健康的な職場、健康的な環境づくり／スタッフの健康ニーズ、参加、及びヘルスプロモーション／私



たちの組織は健康問題に関するスタッフの意識を高め、維持します。」に該当。

報告：大西壽美子氏(愛媛生協病院 事務長)

加盟事業所数

加盟事業所数

121

うち準会員 2事業所

2023年5月25日現在

内 訳：病院 72 / クリニック 14 / 薬局 6 / 研究機関・ヘルスサービス 28*

*研究機関・ヘルスサービスには、老人保健施設、法人グループ、準会員を含む。

加盟事業所一覧

<https://www.hphnet.jp/list/list.html>

賛助会員・寄付を募集しています

日本 HPH ネットワークの取り組みを次世代へと継承していくために、事業目的に賛同し、活動を支援して下さる賛助会員(団体・個人)および寄付を募集しています。この目的を達成するため、次の事業を行っています。

- (1) ヘルスプロモーションの実践と普及
- (2) HPH の担い手の養成と研修
- (3) 研究活動と学術機関との連携・協同
- (4) 国内外の交流と連携
- (5) 啓発・広報
- (6) その他

皆様からのご支援をもとに、さらに充実した活動を続けてまいりたいと存じます。ご支援ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

賛助会員 (寄付金)

- (1) 団体 1口 50,000 円
- (2) 個人 1口 3,000 円

会員特典

- (1) 当ネットワーク主催のカンファレンス、セミナーに HPH 会員価格にてご参加いただけます。

(2) ニュースレターをお送りします。

賛助会員の期間

日本 HPH ネットワークの事業年度の9月1日から翌年8月31日までの1年間です。2024年度の賛助会員は、2023年9月1日より受付します。2023年度 2022年9月1日～2023年8月31日 2024年度 2023年9月1日～2024年8月31日 加盟事業所一覧 > 賛助会員(団体・個人)寄付

<https://www.hphnet.jp/list/kifu.html>

日本 HPH ネットワーク TOPICS

第8回日本 HPH ネットワーク総会・コーディネーターワークショップ

2023年11月11日(土) 9:00～11:00

会場：東京都内 **会場開催**

対象：HPH 会員コーディネーターまたは代理の方

カンファレンスに先立ってカンファレンスと同会場にて総会・コーディネーターワークショップを開催します。今回は会場開催のみとなります。詳細が決まりましたら事業所のコーディネーターおよび HPH 担当者へご案内します。

第8回 J-HPH カンファレンス 2023

2023年11月11日(土)13:00

～12日(日)13:00(予定)

会場：東京都内 **会場開催**

今回のカンファレンスでは、講演と3つのワークショップ、教育講演、ポスターセッションを行います。ポスターセッションは4年ぶりに会場にて口演と参加者交流を行う予定です。参加申込方法、ポスターセッションの抄録募集要項等の詳細が決まりましたら、WEB サイトに掲載します。また、後日講演の一部をオンデマンド配信の予定です。J-HPH メンバーの皆様には事業所へご案内いたします。ヘルスプロモーションの研究と活動報告の交流の場として多数のご参加をお待ちしています。

